

パブリックコメント説明会 議事録（要旨）**【1日目】**

1 日 時 令和8年4月16日（木）10時00分～11時10分

2 会 場 和邇文化センター

3 出席者 34名

4 議事録（要旨）

主な質疑・意見の内容は次のとおり。

質疑・意見 : 幼稚園は単にたまたまそこにあるものではなく、地域や保護者との繋がりでできている。地域があって長い歴史とともに作り上げてきたもの。今回の再編計画のどこにそういったことが考えられているか。

回 答 : 検討委員の中にも地域との繋がりを知っている方に参加していただいている。その中で、市立幼稚園の範囲だけでなくもう少し大きい範囲での地域との繋がりを築いていければと考えている。

質疑・意見 : 大津市では園児数が急激に減少していると説明があったが、大津市では大雑把である。中学校区で検討しているのはなぜか？

回 答 : 学区ごとによって状況が違うことは認識している。これまで1小学校区1幼稚園としてきたが、人口が減少している状況から、これまでより広い中学校区で検討した。人口は学区ごとに取っている。

質疑・意見 : 園児数見込みはどのような統計を取ったのか？

回 答 : 過去の平均をもとに推計している。マンション建設についても増加数を勘案している。

質疑・意見 : 実際に真野北・伊香立再編時期に子どもを園に通わせていたが、再編対応もあり、幼稚園教諭がバタバタされており、保護者とのコミュニケーションや事務連絡がスムーズではない印象があったが、規模を大きくすると更に問題が出るのではないか。

回 答 : 当初、再編計画を検討するうえで幼稚園教諭の意見も取り入れている。園の長い歴史を保ちつつ集団教育を実現するうえで、これまでに実施した再編のノウハウを参考に検討する。再編地域双方の地域との繋がりができると考えている。

質疑・意見 : 中央学区では抗議文を提出しているが握りつぶしているのか。

回 答 : 握りつぶしていない。再編される地域の保護者や地域の方にはきちんと説明をしていきたいと考えている。

質疑・意見 : 例えば大津幼稚園は小中との連携が密になっている地域がある。小1の壁についてはどう考えていますか。

回 答 : 各市立幼稚園での取り組みを他の就学前施設にも普及していくことで、学校と就学前施設で繋がっていくことにより、様々な困難、壁を親子で乗り越えていってもらいたいと考えている。

【2日目】

1 日 時 令和8年4月17日（金）10時00分～11時20分

2 会 場 生涯学習センター

3 出席者 30名

4 議事録（要旨）

主な質疑・意見の内容は次のとおり。

質疑・意見 : 子どもの数の確保は理解できるが、幼稚園と保育園を別々で考えるからおかしいのではないか。子どもを地域で育てるといった観点が必要ではないか。

回 答 : 委員会でも地域の繋がりについては考えられている。民間保育園等全ての就学前施設が大事な施設であると考えており、どこの施設を選ばれてもより良い教育環境が得られるようにしたいと考えている。幼稚園がなくなる地域が出る場合があるが、代わりに保育園等でその役割を担えるようにしたい。

質疑・意見 : コストを重視するという記載が再編資料にあったが、今回の説明会では説明がなかったが。

回 答 : コスト面を考えることも必要であるが、一番大切なことは子どものことを考えることであるため、今回の説明会ではコストについては説明していない。大津市は小規模園が点在しているのに、なぜ何も考えていないのか、と子ども達に将来言われぬように検討している。

質疑・意見 : 再編にあたり通園手段を提示してもらいたい。通園手段も検討段階で示すべきではないか。

回 答 : 通園保障については、委員会でも議論した。例えば通園バスを走らせても長い時間の乗車になる。まだ提示はないが、パブリックコメントで意見が出た場合には、検討委員会で議論をし、答申をいただくことになる。

質疑・意見 : 集団の中で育つということは大事な観点と思う。しかし、子どもの立場にたつということに対して、この再編は本当に子どもの立場にたっているのか。再編後のことについて、どこまで想定しているのか。待機児童問題を解決するために再編をすすめているように思える。認定こども園化すると、保育だけを必要としている子ども、教育を必要としている子どもが一緒になることになるが、それは本当に子どもにとって良いのか。

回 答 : 令和7年度から子どものために取り組む、子どもを専門に扱うこども未来部が編成された。今回の再編では認定こども園化するということは提示していないが、今後、認定こども園化するようなことがあれば比叡平こども園でのノウハウを活かし、子どもの教育に影響を及ぼさないようにしたい。

質疑・意見 : 他の地域から来られている保護者に意見を聞くと、現在の市立幼稚園に満足されている。少人数は何故いけないのか。今まで幼稚園の園児数を増やす施策をしてきたのか。藤尾幼稚園がなくなった原因をしっかりと検証しているのか。

回 答 : 小規模幼稚園を否定はしていない。委員会では一番大事にしているのは子どもの立場にたって考えること。本当に子どもは小規模を望んでいるのか、集団での教育を望んでいるのではないかと考えた。これまでの幼稚園教育の努力として、3年保育、預かり保育、預かり保育の延長を実施し、就労していても幼稚園に通園できるようにしてきたが、それでも幼稚園の園児数は減少している状況。その状況下で大人の責任として子どもの学びの確保をしていきたい。

質疑・意見 : 小規模化は子どもが望んでいない、といった子どものニーズを議論したその根拠となるデータは。子どもや保護者からの意見は聞いたのか。

回 答 : 小規模を否定するものではないが、民間、公立含めた現場の先生方からの意見を聞き、3～4人のグループが複数あることが望ましいとの意見を参考にした。子どもや保護者からの意見は聞いていない。

【3日目】

1 日 時 令和8年4月19日（日）10時00分～11時20分

2 会 場 大津市役所 別館大会議室

3 出席者 48名

4 議事録（要旨）

主な質疑・意見の内容は次のとおり。

質疑・意見 : 待機児童問題があるから再編をするのか。

回 答 : そうではない。再編については以前から検討していること。

質疑・意見 : 再編にあたり何を最も優先して検討したか。

回 答 : 子どもの集団規模を確保すること。現場の先生からも同意見をもらっている。
その上で通園距離や通園保障等については、しっかり検討していく。

質疑・意見 : 幼稚園教諭の処遇との関連は？

回 答 : 検討委員会では議論の対象としていない。

質疑・意見 : 市として再編に係る説明については、今後どのような予定か。

回 答 : 答申を6月頃に受け、その後に計画を策定する。計画策定後、再編に影響のある地域については、順次説明を行う予定である。

質疑・意見 : 推計値はどのように出したのか。

回 答 : 直近3か年の女性子ども比率や就園率の平均から推計を出している。マンション開発については勘案しているが、戸建て開発はどれくらいの就学前人口が含まれるか判断が難しいため勘案していない。

質疑・意見 : 幼稚園と小学校を一体的な教育にするのはどうか。

回 答 : 検討委員会でも議論されたが、その結論には至らなかった。大津市は各地域に市立幼稚園や私立幼稚園、認定こども園が多く点在していることから各地域で子どもを守っていこうとしているため。

質疑・意見 : 配慮を要する子どもに対してはどうか対応するのか。

回 答 : 検討委員会でも、しっかり考えて進めるよう提案をしている。
再編される場合、事前に説明し交流保育等の対応をしていく。また、今まで再編を実施した際のノウハウを活かしていきたい。

質疑・意見 : 幼稚園児数を増やすための改革は考えたのか。

回 答 : 検討委員会でも幼稚園に来てもらう努力をすべきという議論は行った。
大津市では、これまで、3年保育や預かり保育等の実施を行ってきた。

質疑・意見 : 通園支援の方法について、具体的な例を出して保護者に説明する必要がある。

回 答 : 通園保障について、大切な部分であるため、検討委員会でも検討を行ってきた。できることとできないことがあるが、保護者説明の際、しっかり声を聴いていく。

質疑・意見 : 地域のつながりがなくなるのでは。

回 答 : 地域のつながりは市立幼稚園だけでなく全ての就学前施設で実施することが望ましい。

質疑・意見 : 財政面について、検討しているのか。

回 答 : 再編計画には少し記載しているが、検討委員会では議論の中心とはなっていない。今回の検討については、子どもの集団規模を確保することを第一として検討している。